

「赤ちゃん会」を考える

宮川 敏彦
1995年5月7日高知新聞

5月5日付の本紙に、今年「赤ちゃん会」の診査結果が発表された。健康優良・育児奨励・育児努力賞など各賞が決められ、30日には選奨式が行われるという。赤ちゃんとご両親には、心より「おめでとうございませう」と申し上げたい。そして、私の意見は、このように「赤ちゃん会」と選奨式は今回限りでやめてはどうか、というものである。

選奨とは、「よいものを選んで、これを奨励する」といふことと広辞苑にはある。平たく言えば、やはりコンクールで、「よいもの」が選ばれたことになり、「よいもの」といふことになる。選ばれた赤ちゃん会は、どのような子どもなのであるか。

今年第65回。主催者である高知新聞社のお話では、第5回は1929(昭和4)年5月5日、「端午の節句」だそうである。この年は日本帝國主義が中国侵略を開始する前夜、15年戦争への道を歩もうとする時であった。

「赤ちゃんコンクール」は、しばしば軍国主義と結びつき、人的資源の奨励とされてきた。例えば、遠く古代ギリシャ・ローマの時代、軍事国家スパルタでは、部族ごとの長老の前で丈夫な赤ちゃんかどうかを診査を受け、力の強い子どもには土地が与えられ、体の弱い子はタリュゲトン山の麓の深い淵に捨てられたと「ブルターク英雄伝」にある。古代ローマの創始者とも伝えられるロムルスは、市民に対し、「不具奇形でない男児はすべて育てよ、女児は長女のみ育てよ」と命じたといわれる。

国家のために、あるいは戦争のために役に立つかどうかで人間の値打ちを決めるこのような考え方は、第二次世界大戦の時の日本やドイツにもあらわれた。「長めく戦争のための犠牲者の穴埋めとして「未来の兵隊」を確保するためのスローガンであった。「七・五・三」は、軍服や戦闘服を着て、陸軍、海軍、航空隊に立立てられる儀式ともなった。

「赤ちゃんコンクール」の名称は戦後にも引き継がれたが、今日では「赤ちゃん会」となり、診査と言われようになつた。しかし、名称をどうんなに変えたところで、健康を基準に人間を選び、賞を与える点では昔も今も同じである。

子どもは未熟であったり病弱や障害を持っていたり、一様に生まれ、育つとは限らない。いわゆる健康に生まれようとして生まれないと、一人ひとりがかけがいのない生命であり、まったく同じように未来がある。

子どもの権利条約は、「国は子どもに対し、いかなる差別もなく権利を尊重し、確保すること(第2条)」、「すべての子どもが生命に対する固有の権利を有すること」(第6条)と定めている。日本国憲法も児童福祉法も、子どもの権利宣言も障害者の権利宣言も、子どもの権利の無差別平等の原則に立脚している。この世に生まれて一年前後、健康の優劣で赤ちゃんを選別しないで欲しい。

戦後50年、子どもの権利条約発効の今日、軍国主義の時代から続いてきた選奨見かそうでないかをより分ける赤ちゃん会、見直すべきではないかと思うのである。すべての赤ちゃんと両親に、(成人式のうら)祝福できるような行事に変えられるものか、改革を望みたい。

同じ日付の新聞23面に、「障害乗り越え川下り 約四十人がカヌーに挑戦 西土佐村」の記事がある。この人たちも多くは、多分、健康優良

酒と涙と溜息と

山形 蔵王温泉スキーの旅
松山 和雄

酒と 仙台北の山脈は一面の銀世界。早くシャフトベルトをはずしたくたまりません。空港からのツアーバスを降りて宿に入るやいなや、弾けるようにグレンデに飛び出します。

晴れ間の少ない蔵王では、こんないい日和にはグレンデトップを大急ぎで目指します。今年のモンスタ(樹氷)はこのほかに大きく美しく成長しています。

帰りに車内の雪おろしをしたとか、「スキー帰りに真夜中の高速SAでトイレをしていてたまたま『豪華な東北のスキーリゾートホテルでプールからスパ(風呂)に行くつもりが半裸のままフロント、ロビーにいらした』と笑った話のオンパレードで、腹筋が痙攣して笑いの涙があふれます。

溜息と 最終日、四日間の日程も今までのようにスムースに過ぎて帰途に着きました。スキーの余韻覚めやらぬH氏とS氏は仙台北の温泉街で「今日、今日こそは外足にこう乗ってきい」はしゃぎ回っていました。知らんかった!逆のことをずいとしようとした!」などと衆目の中でジュエチャーたっぷり、楽しんで談笑してました。

旅の詳細
日程 1月27日〜30日
場所 山形県蔵王温泉スキー場
参加人数 9名
費用 8万円ほど(御酒代)

いこの風にかかれて
いま小学校で
悩ましき学力問題
山崎 きよ

我が子もはや小学校5年生。今年の3学期には、県版学力テストがあった。本人は「難しかった」とのことです。まあ、出来が悪くてもそれほど気にしてはいないようでした。私自身もそれほど気にしていません。ただ、今年から業者作成の全国統一のテストになったことが、学校のおたよりで書いてあったのが少し気になりました。先日、参観日の際に校長から「県版学力テストは、先日から読解力が全国平均よりも弱かった。学力を上げるために、昼休みの10分を学力向上のために学習時間にします。旨の報告がどうなると、私どもは、皆さんの思いが、他のお母さんたちの様子を見て、何も言えずに帰ってきまして、現

「アテ」はスキーにまつわる参加者それぞれの昔話です。『車のサンルーフを開けたままスキー場の駐車場に停めて、

森晴らしいモンスタ 蔵王のグレンデ

見でも選奨児でもなかったに違いない。しかしここには、伝統主義的な健康観や人間観を越え、新しい可能性に向かって仲間とともに生きていく健康な姿がある。

今は、こういう時代なので

高知市と近辺の小児科医の先生へ
私は当時の4月、以上の原稿を知人の記者にお願いして、高知新聞編集部に届けていただきました。「所感・雑感」への投稿でした。結果は「不採用」でした。内容が十分でなかったか、あるいは掲載する原稿が多すぎて、もれたのだと思います。しかし、私の意見に賛同して下さる方も少なくないと思えます。どうかこいっしよに考えていただきたいと思います。

私はあきらめず、これからも実現のために努力するつもりです。厚かましお手紙を差し上げて申し訳ありません。

(1995年12月20日 宮川 敏彦)

※ この投稿に対して数人の小児科医の先生から「賛成する」「前からそう思っていた」などの賛同の電話と葉書をいただきました。また、高知新聞社の有力な記者さん「現在、朝日新聞本社、東京の論説委員」からも「賛成だ」との意見をいただきました。